

「水辺で乾杯 2018」開催報告

まちづくり・防災グループ 佐治 史

1. はじまりは社会実験

7月7日午後7時7分、水辺に集まって乾杯する。このとてもシンプルな試みが始まって、今年で4年目になります。「なんか面白そう」「わたしにもできそうかも」、そんな気持ちが個人やグループを刺激して、全国各地にちょっとした広がりを見せています。このアクションが、「水辺で乾杯」です。

はじまりは、平成27年度の社会実験でした。普段見過ごしていた水辺の魅力に目を向け、粋に楽しもう、そのきっかけとして水辺で乾杯してみようという国土交通省の呼びかけを端緒としています。7日が休日に当たる今年は、7月6日の開催も可能で、当研究所は6日に実施しました。

2. リバーフロント研究所×水辺で乾杯

乾杯場所は、霊岸橋橋詰の「霊岸橋児童遊園」。東西線の茅場町駅からまっすぐ東に歩いて1分、証券会社が建ち並ぶ一角から少し離れたこの場所は、日本橋川から亀島川（荒川水系一級河川）が分流する地点で、長さ30メートル、高さ8メートルの亀島川水門を臨むことができます。

当研究所が立地する東京都中央区新川1丁目は、隅田川、日本橋川、そして亀島川に囲まれた別名霊岸島と呼ばれる地域です。「リバーフロント」の名に恥じぬ好立地で、乾杯場所にも事欠きません。初年度の永代橋（隅田川、右岸側は中央区新川1丁目）に始まり、亀島橋（亀島川、中央区八丁堀2丁目）、湊橋（日本橋川、中央区新川1丁目）と職場近くの水辺をフル活用しています（図）。

当日は、青色のアイテムを身につけて、おのおの好きな飲みものを手に、6時45分に現地集合。水辺の開放的な空間に集まると自然と会話も弾むから不思議なものです。午後7時7分、亀島川水門を背景に総勢24名で乾杯しました。



図 開催場所の変遷



写真 亀島川水門の前で乾杯

3. 夏の水辺の「風物詩」となるために

結果的には、「水辺で乾杯」を実施しましたが、西日本を中心とした記録的豪雨の最中で、迷いながらの開催となりました。当研究所では、被災された地域への応援メッセージを送ること、川の仕事に携わる者として、また生活者として川は恵みと共に災いをもたらす存在であることを思い返す機会にすること、と捉え直して開催に至りました。

他地域で乾杯を行った皆さんも、同じような想いを抱えていたようです。被災された方々への気遣いや復興を願う投稿が目立ち、例年30ヶ所を超える乾杯場所が今回は137ヶ所に留まったことにも「自粛」の念が現れています。一方、8月に入って新たな動きもありました。7月に中止を余儀無くされた地域で、リベンジ開催を行う方々が出てきたことです（ミズベリングHP）。

風物詩と称されるイベントや伝統行事を思い返してみると、災害や事故を受けて中止や廃止になったもの、そのリスクを抱えつつ継続されてきたものなど様々な形態があります。最終判断は、地域や集団が置かれた社会的な文脈に規定され、画一的な「正解」が存在するわけではないようです。

冒頭に書いた通り、「水辺で乾杯」はとてもシンプルな試みで、かつ全国的な広がりを見せ始めています。この取組みを夏の水辺の「風物詩」として育てていくためには、身近な水辺への洞察力と他地域の水辺への想像力、いざというときに開催するか否かを定める個人や地域の選択する力が益々問われるようになるのではないのでしょうか。

参考文献

・ミズベリングHP

<https://mizbedekanpai.mizbering.jp/index.html>
(2018年8月20日最終閲覧)